

# あおぞうし 青草子

『青鞥』討議資料

正直がいちばん！  
Honesty is the best policy.

松坂まさお  
政治活動報告書  
2014\*11発行 第14号

『青』には「すきとおる」という意味があります。  
水が透きとおって（サンズイに青で）「清い」、  
日が透きとおって（日に青で）「晴れ」、  
心が透きとおって「情」であります。  
透明度の高い『情報公開』を目指します。



## 《巻頭言》想像力

NHKの朝ドラ『花子とアン』（2014年度）は大変な人気で久々の高視聴率だったそうです。

私は『赤毛のアン』を『松坂推薦本百冊』の上位に入れているくらいのファンですので、その翻訳にあたった村岡花子さんの生涯を描いたドラマと分かって、久々にはまりました。ご覧になった方も多いのではないのでしょうか。

この中で「想像の翼を広げて……」という言葉が何度も出てきました。主人公ハナ（のちの花子）は貧乏な暮らしの中で、空に浮かぶ雲をパンに見立てて、空腹を紛らわ

すのでした。本を読み出すと想像力を発揮して物語の世界に入り込んでいきます。

施設で育った赤毛のアンが、苦境の中で想像の翼を広げ明るい未来を描く姿に重なります。

「想像力」こそ人間だけの特権であり、誰にも与えられた能力ではないのでしょうか。相手の立場を理解しようとするとき、経験したことのない現場を乗り越えようとするとき、新しい仕組みを創造しようとするとき、想像力が力を発揮します。

今回は特に「想像力」の大切さを追求します。



## 読書案内コーナー

『赤毛のアン』モンゴメリ: 村岡花子訳  
(新潮文庫)

今回のテーマ『想像力』にふさわしい是非読んでほしい一冊です。主人公が少女なのでどうしても少女向けの本として扱われがちですが、むしろ夢を追いかけることを忘れつつある中年のおじさんおばさんに読んでほしいものです。

私は大学生時代に読みました。

### 青草子 第14号 目次

- |                |     |                 |    |
|----------------|-----|-----------------|----|
| ●想像力（巻頭言）      | 1   | ●《情報発信》街カフェオープン | 10 |
| ●読書コーナー「赤毛のアン」 | 1   | ●島原お得情報：出前講座    | 10 |
| ●教育委員会の仕組み     | 2   | ●島原城を活かす        | 11 |
| ●教育委員会不祥事      | 2～3 | ●古川市政2年目の評価     | 11 |
| ●逆米百俵（学生寮問題）   | 4～7 | ●「青」にまつわるお話あれこれ | 12 |
| ●佐世保事件と県教委     | 8～9 | ●プロフィール・近況報告    | 12 |

# 教育委員会は大丈夫か？！

この夏（2014.8.7）島原市教育委員会の職員による盗撮事件が発覚。事案が事案だけに非常に個人的な問題として片付けられようとしています。教育長・課長も同行していた公務中に起きた事件。この対応には首をかしげる点がいくつも出てきています。

この1年間東京学生療問題に取り組んでき

\*\*\*\*\*

## ■教育委員会とは

この機会に教育委員会の仕組みを紹介しておきます。

教育委員会は市長が、民間から、議会の承認を経て選ぶ5人の教育委員からなる合議制の決定機関。委員の任期は4年間。

5人の互選で、教育委員長と教育長を選任。教育委員長は教育委員会の代表で議事の議長役。任期1年（再任可）。教育長は教育委員会の意志のもと、教育委員会事務局の長として教育行政全般をつかさどる（任期：委員任期）。

教育委員会事務局には島原市の正職員40名以上が配置。規模的には市役所の「部」に相当。教育次長は部長級。

教育部局の事務方のトップは法的には教育長ですが、実質的にはその下の教育次長ともいえます。人事権も実質的には市長部局ということになります。

だからこそ教育の独立という意味で教育委員会の果たす役割、その代表として執行部の

\*\*\*\*\*

## ■事件の概要

事件は今年2014年5月13日、中部国際空港で起きた。1泊2日の出張を終えて搭乗手続きも終えて、出発までの待ち時間に、職員A君は盗撮の現行犯で捕まったのだそうだ。

教育長・課長・A君の3人でのお出張。現地では空港で手配したレンタカーで移動。運転はずっとA君。課長は4月に異動してきたば

て（この件は次章で詳しく報告しますが）、島原の教育委員会は大丈夫かと心配になっています。

島原市教育委員会には、『相手の立場になって考える』という、人としてあたりまえの基本的な想像力が欠落していると思えないのです。一緒に考えてください。



長に就任する教育長の役割は重要です。

その教育長候補となる教育委員は議会の承認を得るとはいえ、市長が任命するわけですから、市長と大きくかけ離れた対立したりすることはないでしょう。

教育見識を持った委員さんたちの合議で、より質の高い教育が論議されるはずなのですが、現実には、月一回の定例会では法に定められた消化事項と報告議題が多すぎて、じっくり審議する時間は取られていません。

元々第三者としてスタートしていませんから、身内に甘く、非常時に機能せずむしろ有害なインペイ組織になり兼ねません。

かり、教育長は象徴的存在。出張の仕事のほとんどが専門性もあって担当者A君にかかっていた。後で分かったことだが、切符や宿の手配、本来はやるべきでない出張経費の立て替え負担までA君はさせられていた。（そのことを課長は把握していなかった。）

上司二人に搭乗券を手渡し、あとは飛行機に乗って帰るだけ。空港の売店でお土産でも



買って……と、ほっと気がゆるんだ時間帯に魔が差したのか。その行為は事実なら弁護の余地はないが、かわいそうではある。

拘束されたA君は携帯で課長に連絡を取り「レンタカーの鍵を紛失したため飛行機に乗れなくなった。先に帰ってくれ」と、虚偽の理由付けでその場をしのいだ。教育長と課長は予定通り帰ってきた。A君は翌日遅れて出勤し3人は再度顔を合わせた。

教育長も課長も、レンタカー鍵のトラブルと認識していて、8月の報道で発覚するまで事実を把握していなかった。とのこと。

### ■人情味のない職場関係

教育長・課長の報告を聞いて、腑に落ちない2～3点を質問した。

「予定の切符を使えなかったA君は、別の飛行機であれ、鉄道を乗り継いだにせよ新たな負担があったと思うが、原因がレンタカーの鍵紛失なら、本人の過失とはいえ、レンタカーは3人で利用して、運転を受け持ったばかりに遇った災難なのだから、余計な出費の3分の1ずつを教育長と課長で負担しようとかしなかったのか？」と。

私が貧乏性なのか？真っ先に心配したのはお金のことであったが、二人の上司は私が質問するまで、余分交通費の割り勘など思いもよらなかったとのことだった。当然トラブルの経緯についても「どうだった？」と聞かなかったらしい。

ふつう聞くでしょ！

「結局鍵は見つかったとね？」とか

「どうやって帰って来たとね？」とか、そして、「君ばかりに運転させて、災難だったね。せめて余分にかかった費用は割り勘にしよう。」など、言うでしょ！

なんと人情味のない職場なのだろう！

### ■警察への対応（公印無断使用）

報道では『島原市教育委員会職員が…』とになっているが、愛知県警は本人の自白だけで身分確定をするのか？事前に問い合わせはなかったのか？

報道直前、テレビ局から問い合わせがあるまで、事件のことには全く気づかなかったと言っていましたが、7月16日に調書の内容の確認のために、愛知県警中部空港署から、内容証明付きの「親展」扱いで、教育委員会社会教育課長宛で身分確認の郵便が届いていたと白状しました。

課長は「ああ、あのレンタカーの鍵の件だろう」と判断し、そのまま開封もせずA君に手渡し、A君が勝手に教育長の決済がなければ押すことの出来ない公印を押して処理をしていた。との報告。

普通じゃない！（と、私は思います。）警察から、内容証明付きの親展の郵便を受け取って、中身も見ずに、担当A君にホイと渡す。「あれっ何だろう？」と思わなかったのか？基本的な人間の想像力はあるのか？

### ■金銭感覚の欠落

そしてお金のこと。この度の出張は「島原城復元50周年事業特別会計」で扱い、精算払いとなっていた。こういう場合「前渡金」といって、立替金を予算化する。教育長や課長が決済すればすぐに出来ることなのに、A君は、20万円近い出張費用を同僚に借金して切符等を手配していたのです。

出張の金の準備は大丈夫か？と問いかけるどころか、黙って座っていりゃ、行って帰って来られると思っているのでしょうか。これは公務員全体に言えることですが、金銭感覚が市民とかけ離れています。

